

バイオログ DL-5000・DL5500 の無線通信の仕組み

バイオログは、無線が途切れた場合を考え、下記の仕組みで作られています。無線環境によっては、連続して通信する筋電図の表示は難しいケースも考えられます。測定データは内蔵メモリによるロギング機能をご活用下さい。

- デジタル通信は一定のデータをまとめて送信するため PC の表示は 64msec 遅れます。(9ch 以上は 128msec)
- 通信が途絶えても 500msec までは再送を繰り返します。PC 表示は通信が途切れた時間だけ遅れ時間が増えますがチャンネル間の時刻は統合されています。
- 無線筋電図センサ毎の異なる遅れ時間とリアルタイムの有線センサとの時間差も測定前に同期(充電)ドックで本体と同期設定を行い、受信時に統合します。
- 無線筋電図センサのメモリには最大 6 時間のデータが保存でき、測定後に本体で統合します。メモリしたデータには途切れやチャンネル間に時間差はありません。
- DL-5500 のアナログ電圧出力は、連続して出力する為に 500msec 固定の遅れが有ります。500msec 以上途切れた時は基線表示になりますがデータは本体メモリに保存されています。

S&ME